

甲武信水の森

ユネスコエコパーク登録に向けて

ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)は、「自然と人間社会の共生」を目的にした取り組みで、現在、日本国内の登録件数は7件です。県内では「南アルプスユネスコエコパーク」が既に登録されています。県は、山梨・埼玉・長野3県の10市町村と連携して、自然環境や地域資源を生かした持続可能な発展のため、新たに「甲武信水の森ユネスコエコパーク」の登録を目指しています。

秩父多摩甲斐国立公園を中心とするエリアを ユネスコエコパークに

県と、山梨・埼玉・長野3県の10市町村は、5月29日に「甲武信水の森ユネスコエコパーク登録推進協議会」を設立し、秩父多摩甲斐国立公園を中心とするエリアのユネスコエコパークへの登録を目指しています。この地域は、荒川、多摩川、笛吹川、千曲川などの流域であり、古くから首都圏や周辺地域の水源として守られてきました。「甲武信水の森」の名称は甲州、武州、信州の頭文字と清らかな水を育む豊かな森をイメージしています。この地域は日本有数の山岳が連なり、四季折々の美しい自然や渓谷美などに恵まれた地です。また、貴重な

自然や生態系が保全され、生物の多様性に富んでいます。一方、古くから伝承されてきた民俗芸能や山岳信仰などの多様な文化が残る地域でもあります。

ユネスコエコパークに登録され、国際的に認められることは、地域の誇りになるとともに、郷土愛の深まりや自然保護活動の活性化、教育や経済への効果も期待されます。

登録推進協議会では、10月末に登録申請書を日本ユネスコ国内委員会へ提出しました。今後、順調に手続きが進むと平成30年に登録が決定されることとなります。



3県の境にあり奥秩父山塊の中央に位置する「甲武信ヶ岳(こぶしがたけ)」

ユネスコエコパークの仕組み

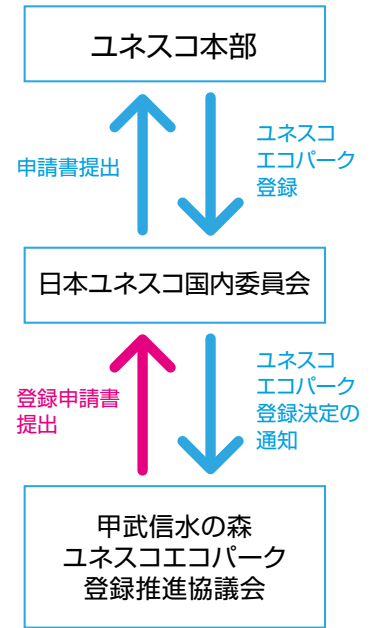
3つの機能

- 1 保存機能**(生物多様性の保全)
人間の干渉を含む生物地理学的区域を代表する生態系を含み、生物多様性の保全上重要な地域であること。
- 2 学術的研究支援**
持続可能な発展のための調査や研究、教育・研修の場を提供していること。
- 3 経済と社会の発展**
自然環境の保全と調和した持続可能な発展の国内外のモデルとなりうる取り組みが行われていること。

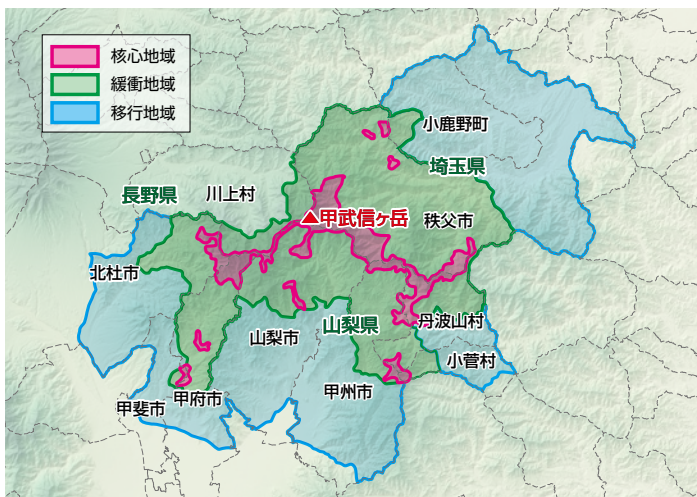
それぞれの機能は独立のものではなく、ユネスコエコパークを相互に強化する関係です。この3つの機能を果たすために3つの地域を設定しています。

<p>核心地域</p> <p>厳格に保護、長期的に保全される地域</p>  <p>西沢渓谷(山梨市)</p>	<p>緩衝地域</p> <p>自然の保全・持続可能な活用への理解の増進、将来の担い手育成等が行われる地域</p>  <p>三峯神社お犬様(埼玉県秩父市)</p>	<p>移行地域</p> <p>人が生活し、自然と調和した持続可能な発展を実現する地域</p>  <p>一之瀬高橋の春駒(甲州市)</p>
--	--	---

ユネスコエコパーク登録までの流れ



甲武信水の森 ユネスコエコパーク候補地 ゾーニング図



山梨県と県内市町村(甲州市・山梨市・北杜市・甲斐市・甲州市・小菅村・丹波山村)、埼玉県の秩父市・小鹿野町、長野県の川上村で構成される登録推進協議会

ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校



グループごとに話し合う課題は、住みやすい地域づくり、豊かな自然環境の保全と活用、伝統文化の継承など、多岐にわたる

2012年にユネスコスクールに加盟した本校では、現在、高校2年生約90名が13のグループを作り、グローバルタデイズの授業の中で「甲武信水の森ユネスコエコパーク」登録に向けた課題研究を行っています。生徒たちは、グループで話し合いながら学びを深めていく中で、山梨のために役立ちたいという気持ちを強く感じているようです。2月9日に校内で成果発表をする予定ですが、生徒たちがどんな提言をするのか今から楽しみです。



山梨英和中学校 教頭 糟谷 理恵子さん

ふるさと山梨を守り続けるために
ユネスコスクールとしてできること
山梨英和中学校・高等学校